

## 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果 (H29.1/25 ~ 2/8)

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの浮遊放射性物質の濃度(ミリベクレル/m<sup>3</sup>)を測定しました。 下段( )内は検出限界値。

測定地点			1/25 ~ 2/1	2/1 ~ 2/8
小高区	川房公会堂 (川房)	Cs134	不検出 (0.018)	0.016 (0.014)
		Cs137	0.026 (0.020)	0.095 (0.014)
	金房小学校 (飯崎)	Cs134	不検出 (0.013)	不検出 (0.016)
		Cs137	0.025 (0.013)	0.054 (0.016)
	塚原公会堂 (塚原)	Cs134	不検出 (0.014)	不検出 (0.016)
		Cs137	0.015 (0.012)	0.031 (0.016)
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	Cs134	不検出 (0.020)	不検出 (0.019)
		Cs137	0.043 (0.017)	0.099 (0.018)
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	Cs134	不検出 (0.012)	不検出 (0.014)
		Cs137	0.013 (0.012)	0.030 (0.012)

(ミリベクレル/m<sup>3</sup>)

測定地点			1/25 ~ 2/1	2/1 ~ 2/8
原町区	横川ダム (馬場)	Cs134	不検出 (0.022)	0.024 (0.019)
		Cs137	0.042 (0.013)	0.150 (0.017)
	原町保健センター (小川町)	Cs134	不検出 (0.017)	0.016 (0.012)
		Cs137	0.047 (0.019)	0.077 (0.014)
	高平生涯学習センター (下高平)	Cs134	不検出 (0.015)	不検出 (0.015)
		Cs137	0.034 (0.015)	0.140 (0.014)
	市立総合病院 (高見町)	Cs134	不検出 (0.016)	不検出 (0.014)
		Cs137	0.090 (0.013)	0.099 (0.014)
	大原公会堂 (大原)	Cs134	不検出 (0.019)	0.016 (0.015)
		Cs137	0.130 (0.016)	0.120 (0.013)

検出限界値はおおむね0.02 ~ 0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、放射能濃度が検出限界値未満の場合、「不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長) による解説

今回の大気浮遊じん放射能濃度は、セシウム137で平均0.068mBq/m<sup>3</sup>と極めて低い値で推移しています。通常の生活で健康影響を心配する必要はありません。

南相馬市における大気浮遊じん放射能測定は、東京電力福島第一原発から16km、25km、32kmの概ね同心円状に15拠点が配置(注1)されています。

周辺の汚染土壌や事故現場からの放射性物質の飛散の有無を迅速に観測できるように実施しています。

15拠点の内訳は、市の運用が10か所、国や福島県の運用が5か所です。

(注1) 観測拠点の配置は、 <http://rbnet.jp/shiryu/taikifuyu.pdf> で見られます。